

<資料3>

(仮称)八の沢風力発電事業に係る環境影響評価方法書に対する事前質問及び事業者回答

NO	質問・意見の概要	事業者回答
1	<p>・p2-9(11)            施工に伴う改変面積で、侵入路・管理用道路がAB案それぞれ、約26,000㎡、22,000㎡とあるが、これは具体的に、幅何mで全長何mくらいになるのか。            また、組立・据付用地については、風車1基あたりの面積を求めるには8分の1すればよいのか。</p>	<p>進入路・管理用道路の改変面積は、A案が幅5m、全長約5,100m、B案が幅5m、全長約4,500mで算出しております。            組立・据付用地の改変面積は、設置場所により多少の差異がありますが、1基あたり概ね8分の1の面積で算出しております。            これらの改変面積は、今後、風力発電機や進入路・管理用道路の具体的な配置を決定した上で、詳細な造成計画を踏まえて面積を算出し、準備書に記載してまいります。</p>
2	<p>変電所建設工事や北電の送電線に連系させるための配電線工事にかかる、改変ルートや改変面積はどうなっているのか。</p>	<p>現時点において、変電所は既設の望来線近くの進入路・管理用道路沿いに設置を検討しております。            今後、変電所や連系点、進入路・管理用道路の具体的な配置を決定した上で、詳細な改変ルート及び改変面積を算出し、準備書に記載してまいります。</p>
3	<p>・p7-24-25(190-191)            それぞれの調査の頻度や、回数、総観察時間、調査時期などはどう計画されているのか？たとえば衝突率の計算は、渡り鳥か繁殖鳥かで、必要な調査時期も頻度も異なるが、具体的な計画はなされているか。</p>	<p>希少猛禽類は、繁殖期(4～8月)は月1回3日間、調査時間は早朝～8時間以上、5定点で行う予定です。越冬期(12～2月)は月1回3日間、調査時間は日中の8時間以上、5定点で行う予定です。            渡り鳥は、気象や周辺飛来地での渡り動向を考慮し、秋季(10～11月)は月1回3日間、春季(3～4月)は月1回3日間、4定点で行う予定です。調査時間はいずれも日の出前2時間～日の入後2時間を行う予定です。            また、合わせて飛翔高度、飛翔軌跡の調査を行い、これらの調査により得られたデータを用いて、衝突率の計算を行う予定です。</p>
4	<p>爬虫類、両生類、昆虫類の「任意調査」とは何か。</p>	<p>特定のルートを定めず、調査地内の環境に合わせ、任意に踏査して生物を確認する手法です。</p>
5	<p>夜間調査はフクロウ等の夜行性鳥類のみか？視認しづらい項目(たとえば夜間の渡り)について、レーダーを用いた調査などの導入は行わないのか？</p>	<p>夜間調査はフクロウ等の夜行性鳥類を対象に考えております。なお、渡り鳥に関しましては、日の出前2時間～日の入後2時間についても調査を行う考えです。            夜間は、鳴き声の確認による調査を行う予定です。</p>
6	<p>コウモリの捕獲調査地点は北側に1点のみか？専門家Bの意見を踏まえて、南側(五の沢池)にも設定すればよいのでは。</p>	<p>五の沢池付近は、広い開放水面上でコウモリ類の採餌、給水が予想される地点ですが、空間が広すぎるため、捕獲調査には適しておりません。そのため、当地では広範囲で確認可能なバットディテクター調査によりコウモリ相の把握を行う予定です。            一方、捕獲調査地点を「T.1地点」とした理由は、多様なコウモリ類が利用すると考えられる沢、広葉樹林が存在し、かつ林道上に適度に広葉樹の被覆があることから、カスミ網及びハーブトラップの設置に適していると考えたためです。</p>
7	<p>事後の影響評価、およびフィードバック管理にもとづく保全措置についての計画はあるか。</p>	<p>事後調査の計画については、今後、現地調査を踏まえて具体的に検討を行う所存ですが、不確実性が大きいと考えられるバードストライク等については、事後調査を検討しております。            また、必要に応じてフィードバック管理を含めた保全措置を検討する考えです。</p>